



大きな木のはなし

「なな山緑地」の樹木は勢いよく大きくなっている。

大きな木は一言でいえば巨樹ということだが、その定義はどうか胸高周長（幹周り）3m以上のものようだ。地上1.3mのところまで計測し、その太さで決められるので、樹高との関係はない。

「なな山」の樹木を目で追って、大きそうなものをいくつか計ってみた。今のところ2.1mが最も太い。これは東の山のヤマザクラだ。他に2m前後の木は、何本かのヤマザクラ、ケヤキ、モミとあるが、1.8m程度が多い。胸高直径にして最大70cmで、多いのは5～60cmのものだ。巨樹と呼ぶには程遠い。

樹齢が5～60年と若いことがその理由の一つだが、別の視点からみることもできる。それは樹高がかなり高いことからわかる。樹木の性質上、ほとんどのものは日照を求めて枝葉を伸ばすが、その広がり具合と太さとは比例してくる。ところが「なな山」のように樹木が立て込んでいると、枝葉を広げることが難しく、日照を求めるには上に伸びるしかないので樹木同志の競争となる。競争に負ければ日照が得られず、成長を阻害されやがて枯れる。背の高い樹木が多く見られるのはそのためだ。現状では年数が経っても巨樹に導くのは難しいかもしれない。強い間伐をやって樹木の間隔を広く取らないといけないからだ。

全国の山々に人知れず存在する巨樹はかなりあると思われるが、そのほとんどは樹形が悪く材木に適さなかったり、伐採に危険が伴う急傾斜地だったりするため、林業的伐採を免れて孤立状態で放置されてきたものなのだ。

一方、古くからの寺社林のように、ご神木として保護されてきた樹木に巨樹や古木が多いのは確かだ。いずれにしても、巨樹の存在にはかなり人為的な力が介入していることになる。

世界ではアメリカのセコイアの仲間が胸高周長50mに達するものがあるが、国内ではクスノキで24m前後のものが鹿児島県と静岡県にある。巨樹になる樹種としては、クスノキ、ヤマザクラ、イチョウ、トチ、スダジイ、カツラ、モミノキ、タブノキ、スギなどが多い。ちなみに屋久島の縄文杉は樹齢7000年とも3000年ともいわれているが、その胸高周長は16mとのことだ。

多摩市内にはどんな巨樹があるのだろうか。いくつか紹介しよう。

相田 幸一



平久保のシイ

平久保のシイ：落合4-22・平久保公園 5.9m（数字は胸高周長）

東京都指定文化財（天然記念物）

ケヤキ：連光寺・春日神社 大4.5m 小3.1m ※

豊ヶ丘1-21-3 多摩市立子育て総合センター
3.9m ※

スダジイ：連光寺・八坂神社 4.65m ※

南野・一本杉公園 3.61m ※

ムクノキ：連光寺・白山神社 4.2m ※

シダレザクラ：鶴牧2-22-2・川井家 3.5m ※

※印は多摩市指定文化財

その他に、大シラカシ：貝取2-14、ケヤキ：一ノ宮2-5なども一見の価値がある。

各街路樹の樹木もそれぞれに楽しみにしたいものが多い。大きい木巡りはいかがだろうか。

なな山自然観察会

多摩市立南鶴牧小学校 副校長 福田 章人

多摩市に里山が残されていることを知ったのは昨年度のことでした。学校長が以前、多摩第二小学校に勤務していたことから「なな山緑地」のすばらしさをお聞きました。そのときのねらいは「多摩市産カブトムシ」とそのえさとなるシイタケの栽培が終わったあとのポロポロになった「ほだ木」を入手することでした。できれば、多摩市産カブトムシを1人1匹ずつ小学校2年生に飼育させようと考えていたのです。

昨年はカブトムシの数が少なくなってしまっていて、20匹ほどしか獲れませんでした。古い「ほだ木」を30本程度いただきました。お願いがあがったとき、実際に山を案内していただきました。よく手入れが行き届いた里山でした。この里山を多くの方に体験してもらえるといいなと感じました。春に来て花も見たいなと思いました。そこで、子どもだけでなく、親子の自然観察会を企画しました。植物については、なな山緑地の会の方が解説して下さるということだったので、植物を中心とした観察会にしました。できれば昆虫など、虫の専門家の方の解説も欲しかったのですが、今のところは、網を持って行って子どもが自分自身で調べる程度にしています。

一番花が見頃なときに1回だけ実施し、おいしいところだけをいただくより、四季を通して、それぞれの季節のよさを感じてもらいたいと思ったので、春夏秋冬の4回はシリーズで観察会を行いたいと思っていました。それによって、季節による動植物の様子を比較する力も育てたいと考えました。植物は、花の季節だけでなく、葉の様子、実の様子、紅葉・落葉、樹形と季節ごとに観察できることがあります。また、昆虫も、季節によって種類や数、見つけられる場所が違ってきます。このように、同じフィールドで継続的に観察していく機会は意図的に作らないと、なかなかできません。そのようなこともあって季節を追いながらの「なな山自然観察会」を実施することにしました。

第1回目は春季休業中の3月28日(水)に実施しました。児童17名、保護者5名、教員2名が参加しました。早春の里山では木々が芽吹き始めていました。



春、第1回目のなな山自然観察会

ウグイスカグラは花が咲いていました。広場にはヒメオドリコソウなどの草花がすでに咲いています。でも、なんとも林の中に咲いた黄緑色のシュンランの花に出会えたのが最高でした。学校だよりで観察会の結果を紹介しました。



シュンラン

まだ、花が少なかった第1回目の観察会での様子から、

もう少し春が深まってから、もう1度観察会を実施することにしました。第2回目の春の観察会は5月12日(土)に、児童24名、保護者9名、教員3名が参加しました。



準絶滅危惧種エビネ、絶滅危惧II類キンラン、ササバギンラン

前回よりも、参加者も多く、エビネにキンラン、ササバギンラン、サイハイランとラン類が花盛りで参加者も大満足！アマドコロも満開でした。私は、多摩の名が付く・絶滅危惧II類のタマノカンアオイの花を初めて見るのができたのが大収穫でした。天気は下り坂。お弁当を食べてからなな山をあとにしました。午後は雨。

夏は、7月7日(土)に企画。葉の様子を観察したり、虫獲りをしたりする予定でしたが、前日、雨がけっこう降ったため、安全のために中止としました。児童は10名が参加予定でした。その後、夏季休業に入ってしまった、代替日が設定できませんでした。

次回は秋の観察会を計画したいと思っています。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



絶滅危惧II類タマノカンアオイ

日々雑感 長尾 満昭

浅学非才を自認する私は、文章を書くことを大の苦手としており、出来得ればこの「リレー随筆」はパスしたい気持ちでいますが、会員として順番となれば、気が重いながら身近な生活の中から気が向くままに書くことにいたします。

2年近く前、妻を亡くし、独り身の生活の中から男性諸氏に参考になる事などを列記します。

まず、定年を過ぎると「怒家内（オッカナイ）」の天下となる生活に入ることでしょう。しかし、家の中での仕事が如何に大変であるかは実感してみないと判らないことです。家族のための三度の食事の支度、掃除、洗濯、ゴミ出し、近隣の付き合い、それらは全て連れ合いに頼っていたことと思います。こうしたことは、独身になると如何に大変であるかを実感します。そのため皆様は日々連れ合いには感謝の念を言葉で示して下さい。

幸い私は寝たきりの家内の介護のため、死亡するまでの3年間は寝ていても口煩わしい指導があったため、家内の死後も日常生活に困ることはほとんどなく過ごすことができていますが、齢77歳の今、これから老いていく自分が如何に他人様の迷惑にならず、生きていくかを考えたとき、私は次の目標をかかげ、日々を過ごしております。

- 《一》 一日一善。些細なことでも良いことをしたと実感すること（自然や人に感謝の気持ち）。
- 《十》 十人の他人と会うこと（おはようございますと言える人を含めて）。
- 《百》 百回笑う（独りでは笑う回数が少なくなるので、意識して寄席等に出かけている）。
- 《千》 千字書くこと（写経を含め、ツイッター的日記を書くことでほぼ達成）。
- 《万》 万歩歩くこと（万歩は1時間強歩くことになる。階段などは全て上る）。

上記全ては達成できずとも努力だけは怠りなく、精神力の効用にもなると思いつつ。日々を過ごしております。また、趣味は書道（自己流）、ドライブ（年間1万km以上）、杖道（古式道）、カラオケ等で、今後吹矢に挑戦する予定です。皆様、今後ともよろしくご指導のほどお願いいたします。次は、いつも道具の整理でお世話になっている出口さんをお願いします。



府中の子どもたちが
なな山見学に来ました。



エコメッセ府中の企画で、府中の子どもたちに雑木林を見せようという話が持ち上がり、8月25日（土）になな山緑地で実現しました。当日は朝から天気恵まれ、参加者は子どもたちとエコメッセ府中の皆さん、相田さん、住崎で、総勢15名ほどになりました。里山と農業の関係から、現在の雑木林の手入れ等について、オリエンテーションの後、西の山から中の山を見学。相田さんから「草花・樹木」の特色をガイドしていただき、「手入れしてある里山の姿と、長期間放置された雑木林」を目にして、皆さんその対比にとっても関心をもたれたようです。

子どもたちは虫採りに夢中で、カゴいっぱいバツタを採集しましたが、帰る時には、雑木林へ放してやりました。生き物を観察することは、自然界から命の大切さを学ぶことです。



また、子どもが虫採りをしている姿はとてもほえましいものでした。今後は多摩市の児童と合同で開催できることを期待します。
(住崎岩衛)

コ克蘭の花 確認 !!

6月24日の活動日にコ克蘭（ラン科）の花を確認しました。昨年発見されたものですが、花が咲くまでは確定できなかったものです。場所は東の山へ登る階段の途中です。

「コ克蘭は黒い蘭という意味で、花がまるで黒い色に見えることからその名が付けました。しかし実際は黒より明るく、暗紫色です。また花茎は通常は緑色ですが、時に暗紫色のものもあり、その場合は花全体が暗紫色に染まり、まさに黒蘭の様相です。

花の形をよく見てみると、暗紫色の胸のような部分が唇弁です。中央に浅い溝があって反り返り、先はへんこんでいます。後ろ側で上に向かって尾のように伸びているのは背萼片、下へ伸びているのは側花弁で、側花弁と唇弁の間に見えるのが側萼片です。鳥の頭のように上に直立しているのがずい柱です。唇弁の基部の両側には針状突起がふたつあります」。



（解説と写真は「徳島の野草」のHPより借用転載しました）

なな山日記 (活動・観察記録)

とたに えま

<p>No.189 2012年4月28日(土) 晴れ 気温23℃ 参加者9人</p> <p>「多摩市グリーンボランティア講座」がなな山緑地で開催された。11期講習生25名が参加。</p> <p>●主催者/多摩森木会:川添修、赤羽誠、今野東代 多摩市:芳野課長、小林主査、松下主査、他3名</p> <p>●講義内容/雑木林の成り立ちについての講義、手鎌による草刈り実習、刈払機の使用法の説明と実技体験。</p> <p>●活動内容/会の経緯・新エリアなどに触れた挨拶、里山を多摩市に寄付した経緯及び農家と里山の関わりについての説明、なな山緑地全域の案内と植物解説。</p>	
<p>No.190 2012年5月13日(日) 晴れ時々曇り 気温22℃ 参加者15人</p> <p>「なな山だより 第25号」配布。倉庫の掃除。</p> <p>●作業/サツマイモとカボチャの植付け準備、ジャガイモの芽かき、追肥、法面の草刈り、倉庫整理、マツの引き起こし作業。</p> <p>●観察/キンラン、ササバギンラン、コバノタツナミ、アマドコロの花が咲いた。</p>	<p>No.191 2012年5月27日(日) 晴れ 気温25℃ 参加者19人</p> <p>ジャガイモ、タマネギがよく育っている。</p> <p>●作業/サトイモの土寄せ、法面の草刈り、道路沿いの清掃、柵の修復、東の山の道作り。</p> <p>●観察/サイハイラン、スイカズラの花が咲いた。</p> 
<p>No.192 2012年6月10日(日) 曇り時々晴れ 気温24℃ 参加者15人</p> <p>前日の雨とは打って変わり、晴れて暑い。タマネギ豊作、ホダ木の本伏せ、枯木の伐採など、作業は順調。</p> <p>●作業/カボチャの定植、タマネギ収穫、ホダ木の本伏せ、枯木の伐倒、草刈り。</p> <p>●観察/ホトトギスが鳴いた。ニホンヒキガエルが見つかる。ヤブレガサの蕾は大きく、イチヤクソウの花が咲き始めた。</p> 	<p>No.193 2012年6月24日(日) 曇り時々晴れ 気温21℃ 参加者14人</p> <p>台風による被害調査の後、折れた木の伐倒。</p> <p>●作業/台風被害の調査、折れた木の伐倒、落枝拾い草刈り、機械メンテナンス。</p> <p>●観察/ミズイロオナガシジミを観察。コクラン、ヒヨドリバナ、ナンテンの花が咲いた。</p> 
<p>No.194 2012年7月8日(日) 雨のち晴れ 気温23℃ 参加者15人</p> <p>ジャガイモ豊作、昼はジャガバターパーティー。</p> <p>●作業/ジャガイモ掘り、サトイモの土寄せ。法面・道路沿い・林内の草刈り、東の山の道作り、機械メンテナンス。</p> <p>●観察/アキノタムラソウ、ヒメヒオウギズイセンの花が咲いた。ヤマユリの蕾が大きく膨らむ。</p> 	<p>No.195 2012年7月22日(日) 雨のち曇り 気温23℃ 参加者15人</p> <p>昼食用のベンチが壊され、丸太イスが全部倒されていた。ヤマユリ満開。東の山へ繋がる橋完成。</p> <p>●作業/サツマイモのつる返し、ナガネギ定植、ベンチ修理、東の山の道作り。</p> <p>●観察/ヤマユリ、オオバギボウシ、ヤブミョウガの花が咲いた。羽化したてのヒグラシ?を観察。</p> 

お知らせ

●「なな山だより」の編集制作を24号以後、鎌田さんから引き継いだものの、身体を壊してしまい、編集委員はじめ皆様にご迷惑をおかけ致しました。今後は、今までのような活動ができないため、自宅ですることをお手伝いさせていただこうと思っています。宜しくお願致します。(中原)

なな山だより 第26号 2012年10月14日発行

発行 なな山緑地の会
 発行責任者 高木直樹
 住所 多摩市和田1394-13
 ホームページ <http://www.geocities.jp/nanayamaryokuchi/>
 編集委員 鎌田文雄 中原君代 戸谷恵麻